

3階西病棟この1年を振り返って

3階西病棟看護科長 工藤 仁美

平成17年も振り返ると例年のことですが、入院退院の多い患者様の出入りの激しい一年でした。

この1年の間に40床の病棟を、空床利用でおいでになった患者様もあわせて、1,819人の方が利用されました。

産婦人科の入院の多くは、周産期を中心としたもので、1年間で753人月平均62.8人、その主なものは分娩目的の患者様でした。

12週以降の死産・早産・帝王切開分娩を含めた分娩件数は、月平均44件で1年を通して528件でした。

手術の件数は、帝王切開を含み日帰りの子宮内容清掃術・コンジローマ切除から、子宮摘出等の手術までを入れると月平均18.9件、総数227件となりました。

その他の入院の目的も、多くは悪阻・切迫流早産治療とそのほとんどが、周産期を中心としたものでした。

小児科の入院数は、総数1,066人月平均88.8人、一般病床は13床で、月平均67.4人、1年を通して809人の病児が利用し、未熟児を含め生後間もない新生児の入院は月平均21.4人一年で257人でした。

新生児・未熟児室に入院となった患児は、胎内発育不全のリスクがあつての観察目的の新生児も多いのですが、分娩直後の一過性の呼吸不全による保育器収容管理が必要な新生児も少なくない年でした。

一般病床の小児科入院の多くは呼吸器系・消化器系の感染に伴う炎症性疾患でした。

それと外して考えられないのが、先天性の疾患をもち余病併発による病児の反復長期にわたる入院や、交通事故による脳障害で長期呼吸器使用という、今までにない症例も経験しました。

以上の入院の患者さまを受け入れる私たち3階西病棟は、産婦人科は4月に異動はありましたが川村診療部長を中心に4名が、小児科は室野診療部長を中心に4名の医師が診療にあたりました。

看護サービスを提供スタッフも退職・新採用・院内異動と出入りの多い年でした。

この1年で大きく変わった事は、助産師の北田係長が外来勤務となり、看護師の石垣係長が配属されたことでした。

17年度の病棟目標は、看護部の年間目標を踏まえた上でなお、3階西病棟の特徴である母と子の病棟として、“自己啓発に努め、安全で納得される看護を行う”でした。

平均在院日数約6日という短期入院の患者さまを扱う病棟で、日々繰り返す入退院患者さまのケアや指導、またその事務処理に終われる毎日ですが、その中でも固定チーム制を生かし、地域と連携をとりながら、退院後の生活にむけた患者さまへの継続看護が、まだまだ不十分ながらも行われるようになって来ました。

スタッフの中では、一昨年の結婚ブームの後を受け、出産が3人もあり産休・育休と、マンパワーの不足を感じながらも“母と子の病棟”を、身をもって体験し、その経験を次の看護へ生かすべく助け合って元気にケアに励んできました。

また、看護師になるべく通信教育の看護学校にすすんだ准看護師スタッフ、同じく通信で大学に席を置く者や、継続されている全国の母性衛生学会への研究発表など、わずかながらも個々の能力を高める活動もなされてきました。

これからもスタッフ皆の生活背景はいろいろですが、互いに理解し個々の持ち味を生かして、“次に入院するなら、また3階西病棟に！”を目指して、継続性のある看護を提供していきと思います。